高崎山
写真ヒストリー
自然動物園70年

年末年始も休まずに営業

高崎山自然動物園は定休日がなく、大みそかや元日などの年末年始も休まずにいつも通り午前9時から午後5時まで営業している。年末年始に大分に帰省したり、旅行したりする人たちにも来園してもらいたいとの思いがあるからだ。同様の理由で夏のお盆時期も営業。年間の休園日はメンテナンスに必要な数日だけだ（今年は今月16～18日が休園）。

「元日の入園口の様子」の写真（上、高崎山管理センター提供）は今年1月1日午前の撮影。「あけましておめでとうございます」と赤字で大書きした横断幕を掲げ、新春ムードを盛り上げている。

ただ元日の夕方に能登半島地震が起き、正月ムードは全国的に一気に吹っ飛んでしまった。そのためかどうかは不明だが、三が日合計の来園者数は昨年より683人少ない4416人にとどまった。来園者からは能登半島地震を意識してか「サルは地震の時にはどんな行動をするのか」との質問も職員に寄せられたという。ちなみに園によると、高崎山のサルは激しい地震が起きても驚いたり逃げ回ったりすることはなく、普段通りに振る舞うという。

「モンキークジ当選発表の様子」の写真（下、同）は1968年1月の撮影。園は同年が申（さる）年だったのを記念して正月の三が日、来園者全員に「モンキークジ」を配布し、トランジスタラジオなどの景品を当選者にプレゼントする催しを実施した。写真は、くじが当たりか否かを確認している来園者たちを撮影したもので撮影日は三が日のいずれかと考えられる。

（原則、第2、第4日曜日に掲載します）